

評価基準	回答者数
A とてもよくできている、とてもよくあてはまる	(小学部)保護者 89名 教員 53名
B よくできている、よくあてはまる	(中学部)保護者 52名 教員 29名
C あまりできていない、あまりあてはまらない	(高等部)保護者 196名 教員 74名
D できていない、あてはまらない	学校評議員 4名 合計 497名



教職員評価の結果

学校教育目標		評価項目	評価	小学部	中学部	高等部
進んで学ぶ 生活に生かす	①授業の充実 ・個別最適化された学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善 ・ICT機器などの効果的な活用	学校は、個別の指導計画を基に、児童・生徒の実態を的確に捉える指導を行っているか。	A	(%) 13	(%) 14	(%) 20
			B	85	86	76
			C	2	0	4
		D	0	0	0	
		学校は、学習指導要領を基に、授業のねらいを明らかにした授業づくりを行っているか。	A	(%) 16	(%) 14	(%) 19
			B	82	83	81
		C	2	3	0	
		D	0	0	0	
		学校は、ICT機器などを必要に応じて効果的に活用し、授業を進めているか。	A	(%) 20	(%) 21	(%) 26
			B	76	79	73
			C	4	0	1
			D	0	0	0
	②年間指導計画や個別の指導計画の活用 ・年間指導計画や個別の指導計画、単元展開案を活用した授業づくり	学校は、教科・担当者会において年間指導計画を見直したり、単元展開案の作成などを通して、よりよい授業づくりにつなげているか。	A	(%) 13	(%) 24	(%) 16
		B	81	76	81	
		C	6	0	3	
		D	0	0	0	
		学校は、育成すべき資質・能力の三つの柱(3観点)に沿った学習評価の整理ができているか。	A	(%) 25	(%) 24	(%) 17
			B	70	73	80
			C	15	3	3
			D	0	0	0

【まとめ】

○どの項目についても評価は高く「A」「B」の数値を合わせるとほぼ全項目で90%近い数値となっております。
○「ICT機器などを効果的に活用し、個別最適化された学びを目指した授業づくりを行う」という今年度の重点目標達成に向けて、研修などに積極的に取り組むことができました。ICT機器を活用する場面が授業で多くみられるようになりましたが、より効果的に活用できるよう、さらに工夫と研修を重ねていきます。

みんななかよく 共に働く	③進路指導の充実 ・キャリア教育全体計画や進路指導の手引きの活用、関係機関との協働での支援	学校は、保護者・学校・関係機関との連携を図り、『進路指導の手引き』を活用した進路指導を行っているか。	A	(%) 6	(%) 14	(%) 27
			B	88	79	72
		C	8	7	1	
		D	0	0	0	
		学校は、進路指導を行う際に、キャリア教育全体計画やキャリアパスポートなどを活用しながら指導することができているか。	A	(%) 10	(%) 21	(%) 22
			B	79	69	73
		C	11	10	5	
		D	0	0	0	
	④生徒会活動や委員会活動の自発的・協働的な取組 ・学年や学部内、学部間のつながりをもつ	学校は、児童・生徒間の交流を深め、あいさつや会話を通して、友達となかよく学校生活を送ることができるように指導することができているか。	A	(%) 42	(%) 38	(%) 24
		B	58	62	74	
		C	0	0	2	
		D	0	0	0	

	た活動の実施	学校は、委員会活動や生徒会活動、学年集会・学部集会、にじのおか祭実行委員会の活動などに、児童生徒が自発的・協働的に参加できるような運営、指導を行うことができるか。	(%)	(%)	(%)	
			A	40	27	31
			B	58	69	69
			C	2	4	0
			D	0	0	0

【まとめ】
 ○「進路指導の手引き」や「キャリアパスポート」の活用がまだ足りない点と、保護者への説明が不足しているという課題が挙げられたため、今後改善を図っていきます。
 ○キャリア教育とはライフキャリアを積み重ね、「自分らしい生き方」を見つけるための学習と位置づけ、学校教育全体の様々な教科や活動場面を通じて今後も学習を展開していきます。

元気な体 健康に生きる	⑤あぶスポタイムの充実 ・健康の保持増進と体力向上を目指した取組	学校は、あぶスポタイムや体育・保健体育の授業に取り組むことで、児童生徒が健康な体づくりを意識できるよう指導することができるか。	(%)	(%)	(%)
		A	41	45	39
		学校は、児童生徒の目標に合わせた運動を継続し、「がんばりカード」などを活用して達成状況を確認しながら、意欲的に取り組めるように指導することができるか。	(%)	(%)	(%)
			A	36	21
	⑥食育の推進 ・給食を活用した食に関する取組	学校は、給食を活用し、日々の授業等で児童生徒の食に関する知識や意欲を高める指導を行うことができるか。	(%)	(%)	(%)
		A	12	10	19
		学校は、食に関する指導について、アンケートや給食試食会などを実施し、家庭と連携しながら取り組むことができるか。	(%)	(%)	(%)
			A	19	24
	⑦性に関する指導の推進 ・児童生徒の実態や発達の段階を踏まえた取組	学校は、教職員アンケートを実施し、児童生徒の実態や発達段階を踏まえた指導や性に関する指導の教材の整備に取り組むことができるか。	(%)	(%)	(%)
		A	8	31	12
	学校は、PTAと連携し、「健康に関する学習会」の実施するなどし、家庭との情報共有を行うことができるか。	(%)	(%)	(%)	
		A	19	24	16

【まとめ】
 ○どの項目についても評価は高く「A」「B」の数値を合わせるとほぼ全項目で90%近い数値となっておりますが、「食育」と「性に関する指導」について課題が挙げられました。今後はプロジェクトチームを立ち上げ、重点的に取り組んでいきます。
 ○朝の運動タイム「あぶスポタイム」では、それぞれの学部、学年、学級ごとに健康な体づくりを目指した取り組みを行うことができます。今後も継続して進めていきます。

⑧センター的機能の充実 ・地域における特別支援教育(相談・研修)の充実と関係機関との連携 ・特別支援教育に関する専門性の向上 ・本校の取組や特別支援教育に関する理解啓発や情報発信	学校は、特別支援教育に関する研修会の開催や、出かける相談支援依頼への対応などを通して、地域の特別支援教育の拠点としての役割を果たしているか。	(%)	(%)	(%)
	A	30	31	19
	B	70	69	81
	C	0	0	0
	D	0	0	0
	学校は、教員一人一人が地域支援、校内支援についての支援力を高めるために、職員向けの勉強会を開催し、専門性の向上に向けた取り組みを行うことができたか。	(%)	(%)	(%)
	A	23	24	24
	B	77	76	76
	C	0	0	8
	D	0	0	0
	学校は、ホームページや学校だより、学級だより等を活用し、本校の取組や福祉、進路の情報等を発信することができるか。	(%)	(%)	(%)
	A	20	28	26
	B	76	72	73
	C	4	0	1
	D	0	0	0

【まとめ】

○どの項目についても評価は高く「A」「B」の数値を合わせるとほぼ全項目で90%近い数値となっております。
 ○本校の地域支援センターの活動については自校内でも周知を図る目的で、校内の職員向けに勉強会を開催しています。また、夏季休業中に地域の小学校・中学校・高等学校向けの研修会を実施しました。「出かける支援」とともに、今後も、センター的機能の充実に向け、地域の特別支援教育の力をアップできる取り組みを進めていきます。

⑨安全で安心して学べる学校 ・いじめの未然防止、早期発見 ・心身の健康に関する取組 ・学習環境の充実(学校事故防止・環境美化)	学校は、いじめアンケートの作成、調査を行い、いじめ早期発見に努め、一人一人の障がいの状態や発達の段階、特性に応じた共感的な指導を行うことができていますか。	(%)	(%)	(%)
	A	30	31	27
	B	70	69	73
	C	0	0	0
	D	0	0	0
	学校は、スクールカウンセラー来校相談を実施したり、支援会議を開催したりしながら、チームによる支援体制づくりを行うことができていますか。	(%)	(%)	(%)
	A	28	28	24
	B	68	72	74
	C	4	0	2
	D	0	0	0
	学校は、危険箇所及び修繕箇所を把握・改善し、学習に適した教室内の整理や安全に配慮した掲示を行うことができていますか。	(%)	(%)	(%)
	A	30	31	20
	B	66	69	78
	C	2	0	2
	D	2	0	0

【まとめ】

○どの項目についても評価は高く「A」「B」の数値を合わせるとほぼ全項目で90%近い数値となっております。
 ○いじめについては、早期に発見し、積極的に認知しながら問題の解決・改善に努めていきます。また、スクールカウンセラーや学校医などの関係機関とも連携しながら、心身の健康に関して課題の解決に努めていきます。
 ○開校30年を迎え、建物の老朽化等も出始めているところですが、「安全で安心して学べる学校」に向けて、設備・環境面や教材などの充実を図っていきます。